

新しい歴史の教科書”くにのあゆみ“である。第一ページを開いて、先生も生徒も目をまるくした。

いままでの教科書にあった高天原(たかまがはら)や天孫降臨の話がなくなり、貝塚や古墳のことではじまっている。皇室中心の歴史はぬりかえられた。庶民の歴史が柱になり、明治維新も、国民生活との結びつきで説かれている。少年切支丹使節も、はじめて教科書に登場、歴史はがらりと装いをあらたにした。

講堂から、日露戦争で活躍した軍人、広瀬中佐の額がはずされ、校庭にあった二宮尊徳像も取り払われた。教育は百八十度の転換をしいられ、民主化教育が、かけ足で実行に移された(『激動二十年』)。

(以下次号)

【注】

(16) 『日本の歴史』第13巻

(読売新聞 昭和四十三年)

(17) 『開校五十年記念誌』

(佐伯東小学校 昭和六十二年)

(18) 『鶴谷回顧』(鶴谷中学校 昭和六十二年)

『情報提供』

来島萩山の古墳群発掘について

編集部 林 寅 喜

佐伯市教育委員会ではこのたび来島萩山の宅地造成事業に先き立ち、昨秋初めから発掘調査を進めておりましたが、十一月九日現地説明会が開催されました。これによると発掘されたのは四世紀頃のものと思われる箱型石棺三基で、人骨も副葬品等も出土せず写真のように原形を留めぬ位乱れています。



そこで原形を想定して別添のような復元図を書いて見ました。これで分かったことは石棺の内部は極めて狭く(三号石棺参照)、横幅は僅か三十センチ奥行きも一・五メートル程度で、現代人と比べて背丈や骨格など随分小さかったように思います。



1号石棺(右が頭部左半分は木の株により原形を留めていない)

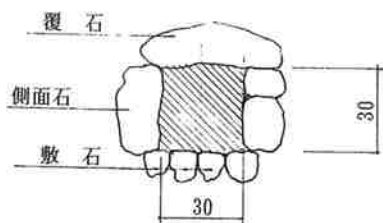


3号石棺(上が頭部)

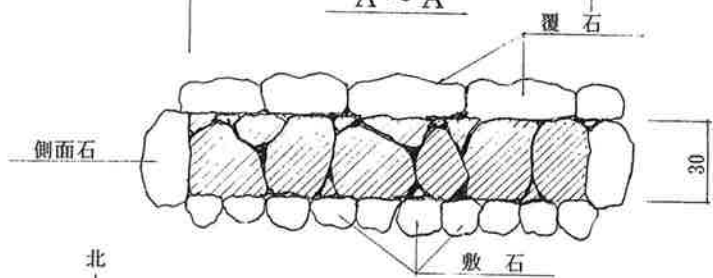


2号石棺(上が頭部)

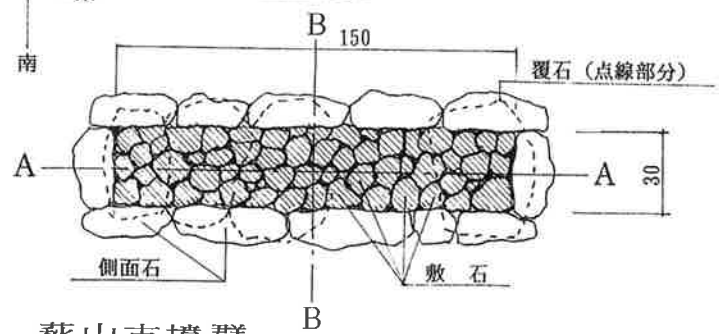
B ~ B



150
A ~ A



平面図



萩山古墳群

(箱型石棺) 想定復元図 S = 1 : 20

作図・平成 11, 11, 10 斜線部分 = 石室